

農業復活への挑戦は続く

水田放牧実証が始まりました



[特集]

未来をつくろう までいの星プロジェクト

未来をつくろう



までの星プロジェクト

教育委員会で検討を進める教育ビジョン(案)です

その子にしかない その子の光を見つけ より輝かせる教育

地域を、学校を、先生を、友達を、どれだけ大事に思っていたか、避難の混乱の中で、改めて気づいた人も多かったのではないでしょう。外で遊べない時期も長くありました。仮設校舎・園舎ができるまでは、借り物の教室で学びました。一方で、転校をした人にも、それぞれに迷いや苦労があったに違いありません。すべての子どもたち、ご家庭が、悩みながら一歩一歩、今日まで歩んできたのです。どの子も星。どこで輝いていても、村で生まれた大切な宝物です。

避難指示が解除され、来年度には、学校も村内で再開されます。避難を続けるご家庭が多い中での、苦渋の決断です。このハードルを跳ぶことが、未来につながる跳躍となるよう、村は教育の充実に、今、力を結集しています。心を豊かに耕し、二人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育が始まっています。

いいたて四季彩景 ● 松原光年さん(小宮)のオープンガーデン

公開終了を迎えた6月最終週の週末には60人余りが訪れ初夏の花々を楽しみました



CONTENTS 目次

- 3 特集1 までの星プロジェクト
- 8 復興を歩む 相農飯館校演劇部 全国大会へ
- 10 6月議会定例会
- 14 特集2 協働で拓く再生の道 ふくしま再生の会
- 16 ほけんとふくし むし歯0の子表彰式ほか
- 17 報告のページ 水田放牧実証ほか
- 18 いいたて便り
- 20 つながるアルバム
- 22 おしらせ
- 23 入札結果
- 24 ひとかたる ものがたり / 堀先生相談室
- 25 こころのぼけっと / ひとのうごき
- 26 フォトストーリー ラリーピンポン交流会
- 28 ホープス / 編集後記

松塚地区で水田放牧の実証が始まりました。実証に取り組む山田猛史さんも、放牧された牛も、うれしそうでした。詳しくは17ページの記事をご覧ください。



●表紙のおはなし●

教育ビジョンの中心には、「目指す子ども像」があります。村は、「よりよい『未来』を自分たちの力で創ることができる子ども」を、「目指す子ども像」としました。

大震災と原発事故により、ふるさとからの避難を余儀なくされた子どもたち。「自分たち」が原因ではなく、「周り」の状況が原因で、幸せだった生活が一変したのです。このような経験の影響として、自分の人生でつまづいた時に、その原因を、「〇〇があったせいで…」「〇〇がなければ…」と、過去の経験に当てはめて考えてしまう恐れがあります。しかし、そうではありません。未来を創っていくのは自分自身に他なりません。



武藤賢一郎 指導主事

私たちは、「どんな環境に生まれても、どんな環境に育っても、自分の人生や自分たちの未来は、自分たちで創っていくことができるんだ」と信じて生きていける人間に育ててほしいという思いをこめて、この子ども像を目指すこととしました。

その実現には、子どもたちに、「自分には生まれてきた価値があるんだ」「自分は社会の役に立つことができるんだ」という「自己肯定感」を育むことが大切です。私たちは、園や学校で、一人ひとりの輝き、その子の「よさ」「らしさ」を皆で徹底的に見つけていこうと考えています。「その子にしかない、その子の光を見つけ、より輝かせる教育」を進めるための教育ビジョンを作成し、実現していきます。

一人ひとりの子どもたちの輝き「よさ」「らしさ」を思いだし、より輝かせる教育を目指します

教育ビジョン「までの星プロジェクト」(案)の一部をお知らせします

※6月26日現在

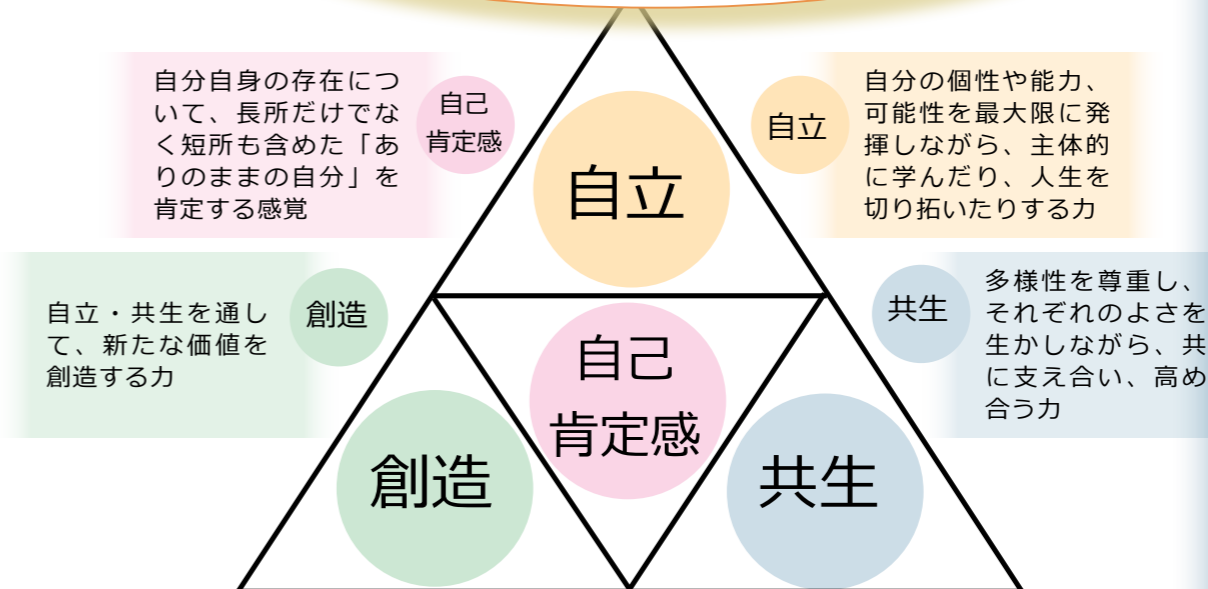
「よりよい未来を自分たちの力で創ることができる子ども」の育成を目指し、0歳から15歳まで一貫した教育を組織的、計画的に行います。

その子の「よさ」、その子「らしさ」、その子の「存在価値」等を、教師が、そして子ども同士が、徹底して見つけ、認め合っています。

学校のことを教師だけでなく、子どもと共に考え、子どもと共に解決し、子どもと共に創り上げるということを大切にします。

よりよい「未来」を 自分たちの力で創ることができる子ども

目指す子ども像



教師・保護者・地域・多彩な協力者との関わり (飯舘村の底力！)

特色ある教育を豊かに幅広く

- ふるさと・キャリア教育
- 認定こども園・小中学校合同の授業・活動・行事
- 感性と心を豊かにする「木育」「読育」「笑育」
- 「花まる学習会」(民間の塾)とのコラボレーション
- 食育・健康教育
- 放射線・エネルギー教育
- 国際理解(英語)教育
- 飯舘型アクティブラーニング

民間学習塾の協力を得るなどして、学力向上への取り組みを多角的に行っています。さらに「ふるさと学習」「食育」「木育」他の教育法を広く取り入れ、人間性を豊かに育む「心の教育」に力を入れています。



中学校では6月13日に「放課後塾」がスタートしました



思考力を高める数学の特別授業を楽しむ中学1年生



「花まる学習会」による思考力を高める特別授業



小学校の土曜授業。親子で「花育」

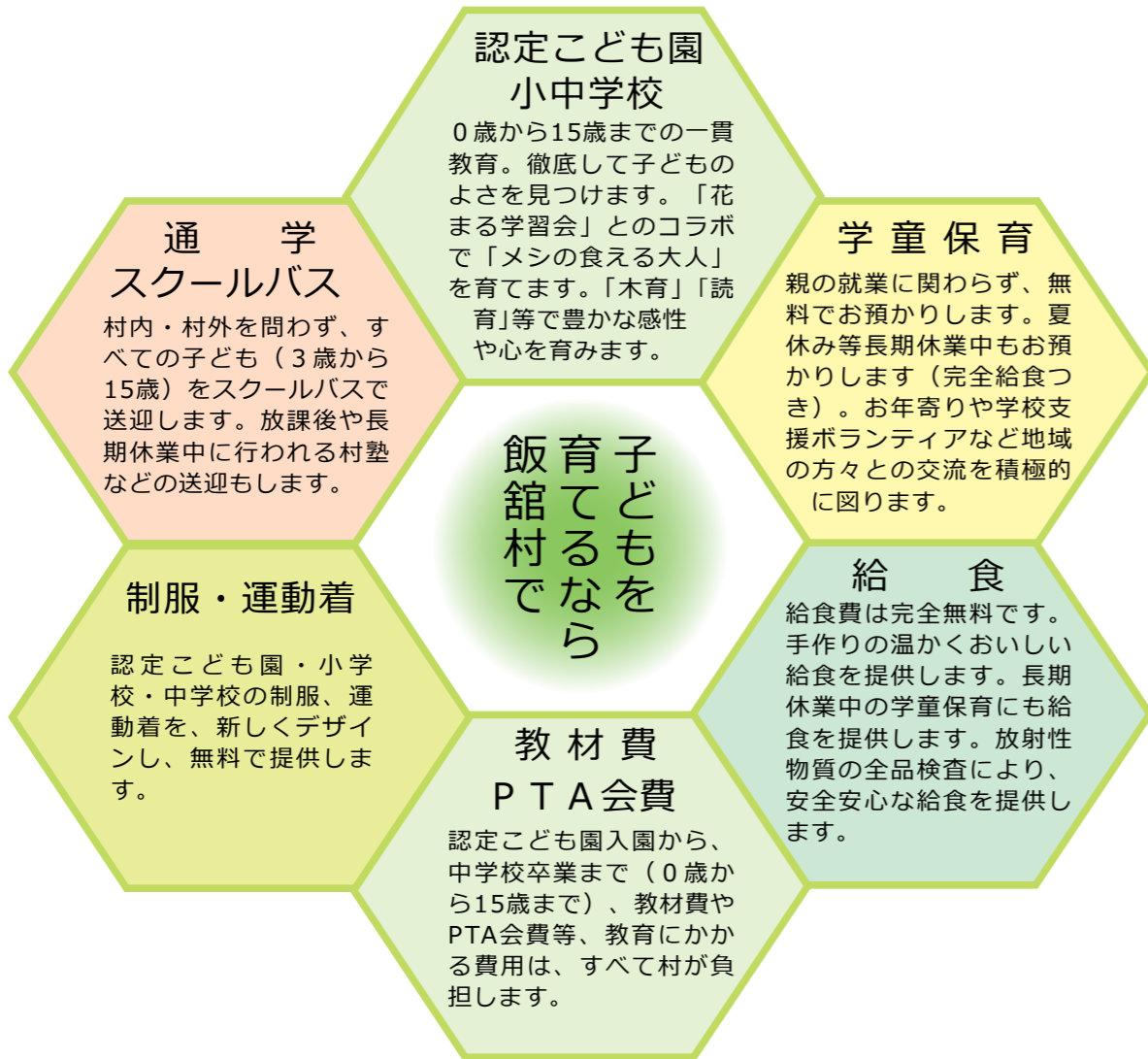
その子にしかない その子の光を見つけ より輝かせる教育



中井田 榮 教育長

一人ひとりの成長に寄り添う教育を

震災の前年度、平成22年度には、村の幼稚園、小学校、中学校に、合わせて679人の子どもたちがいました。今年度の在籍は139人。原発事故がなかった場合の予定数の約21%となっています。人数が減少した中での教育を、どのように高めていくべきか、現場の声を聞きながら、教育ビジョンの検討を進めています。新しい教育法や、特色あるプログラムを取り入れるだけでなく、基礎学力を十分身につけられるよう、一人ひとりの成長や個性に寄り添う学習支援も大事にしたいと考えています。0歳から15歳までの一貫教育のよさを生かし、子育て支援策を充実させて、魅力ある教育環境を整備していきます。



村の教育委員会では、学校運営協議会、教育課程編成委員会、総合教育会議などで、飯館村ならではの教育について話し合いを重ね、人間性と学力を豊かに育む教育ビジョンの策定を進めています。また、子育てと教育を、村としてしっかりと支えていくため、その準備を進めています。現在これらの最新の情報をお知らせするパンフレットを作成中で、7月中の配布を目指しています。

教育ビジョン
子育て支援
パンフレットでお知らせします



わくわくがいっぱい
村ならではの学校が
誕生します

一貫教育のよさを大いにいかしていこう

教育の充実を図りながら、村では、来年度から再開する村内の学校等施設の整備も進めています。0歳から15歳までの子どもたちが、それぞれの年齢や学習内容に合う環境で学ぶことができるよう、さらには異年齢の子どもたちの交流や共同活動が行いやすいよう、随所に工夫がこらされました。運動も各年齢に応じて思い切り楽しめるよう、隣接する運動公園を含めた、大規模な施設整備が進んでいます。

校舎内は木のぬくもりにあふれ、子どもたちが安心してのびのびと活動できるように工夫されていて、遊び心を感じる空間デザインも魅力です。また、ミニキッチンを備えた地域交流スペース、囲炉裏を切った小上がりのある郷土資料室などでは、教育活動を通して、保護者や地域の皆さんに交流を深めていただくこともできます。

多世代間のつながりも豊かに育みます



1階ワークスペースのイメージ

相馬農業高校飯館校の仮設校舎は、福島市永井川の福島明成高校敷地内にあります。避難した県立高校8校の移転先は「サテライト校」と呼ばれていますが、双葉高校、浪江高校他5つのサテライト校は、今年度から休校に。また、小高商業高校・小高工業高校は合併して小高産業技術高校となり、飯館校が、現在も生徒が通う唯一のサテライト校となりました。

平成26年12月に、飯館校サテライト校で誕生した演劇部は、翌年から地区大会・県大会を突破して東北ブロック大会に進出。昨年12月には、創部3年目にして最優秀賞を獲得し、8月に開催される全国大会への出場が決まっています。

全国大会で上演する「サテライト 仮想劇—いつか、その日に、」をはじめ、作品の脚本は、顧問の西田直人先生（ペンネーム・矢野青史）の創作です。原発事故が引き起こした現実を深く見つめた作品には、サテライト校に通う生徒

たちが登場します。切なくも温かなやりとり、明かされていく本当の気持ち、現実を受け入れ未来を生きようとす

る一人ひとりの成長、その愛おしさが、観る人の心を揺さぶります。
現在の部員数は、上演にぎりぎりの5人で、全員が3年生。飯館校がもつアットホームな雰囲気そのままに、互いを支え合う仲間です。地区の発表会や壮行公演を控えた6月2日、南相馬市でのリハーサルを終えて、村内の本校舎に立ち寄りました。

「村を通る時は立ち寄るんです」と西田先生。部員たちは、校舎や部室棟の窓をのぞきこみ、「時が止まっているみたい」「このイメージを演技に生かしたいな」などと言葉を交わしていました。部長の菅野千那さんは、等身大の主人公をみずみずしく演じています。「大きな校舎。自然があつて、季節感があつて、ここで学べたらと想像する。5年・10年後に、ここで後輩たちに、今の私たちのことを伝えられたらいいですね」と校舎を見上げました。

全国大会は、8月1日から3日の日程で、宮城県仙台市の「イズミティ21」で行われ、飯館校演劇部は、大会2日目の8月2日に登場します。

閉鎖されている本校舎校門の前で。校舎の時計が動いていることに気づいた5人。「私たちがプレハブ校舎で頑張っているからかも知れない。まだ可能性がある学校なんだと言っているみたい」。右から、後藤滝翔（りゅうと）さん、高橋夏海さん、菅野千那さん、半澤楓さん、菅野優歩さん、副顧問の佐藤佳代子先生、顧問の西田直人先生



平成29年 第7回 飯舘村議会定例会



平成29年6月議会定例会は、6月9日から15日までの日程で開かれました。一般質問は12日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。議会審議は15日に行われ、提出された議案は追加議案を含めて全て原案どおり可決されました。

今議会で可決された議案等

(紙面の都合上、一部省略しています)

- 平成29年度一般会計補正予算(第3号)
- 平成29年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- 平成29年度簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 平成29年度農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)
- 平成29年度介護保険特別会計補正予算(第1号)
- 平成29年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
- 飯舘村国民健康保険条例の一部を改正する条例

東日本大震災に伴う国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例

東日本大震災による被災者が属する世帯の第1号被保険者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部を改正する条例

いたて村の道の駅までい館設置条例の一部を改正する条例

花卉栽培・多目的広場造成工事請負契約について

復興住宅工リア造成工事請負契約について

飯舘村消防団第一分団機動部ポンプ車の取得について

道の駅までい館建設工事請負契約の変更について

人権擁護委員の候補者の推薦について

村長村政報告

おかえりなさい式典

3月31日、帰還困難区域の長泥を除く19行政区の避難指示解除に伴う「いいたてむら おかえりなさい式典」を開催しました。当日は、交流センターふれ愛館に村民や来賓、関係者など約300人が出席し、盛大に開催しました。

式の中では、「いいたて村に陽はまた昇る」宣言や、小学生による歌「ときよめぐれうまののロンド」、「さとう宗幸さんのミニコンサート、そして「ふるさと4番」を会場全体で合唱するなど、村民の心が一つになった素晴らしいイベントとなりました。

今回のイベントでは、村の復興に向けた新たなスタートと、これまでに多くの皆さんからいただいた心温まるご支援に感謝をお伝えしました。

村公式キャラクター

イタネちゃん

新生飯舘村のシンボルとなる、飯舘村公式キャラクター「イタネちゃん」を制定しました。株式会社電通から提案をいただき、小中学生による人気投票を参考に、4月20日に開催された選挙委員会で決定しました。

小学生が議員となって村づくりの提案をする「みらい議会」で出た意見を実現した第1号となります。今後、「道の駅」の開所式を皮切りに、村のPRに活用していきます。



消防団春季検閲式

4月23日、4年ぶりに村内で開催しました。団員は、真新しい活動服に身を包み機敏に検閲を受けました。消防体制の在り方について、早期に対策を講じていきます。

に策定し適切に対応していきます。

方部別住民懇談会について

4月12日から20日まで、国・村が県内4会場で開催しました。懇談会は、帰還困難区域を除き避難指示が解除されたことよって、帰村を希望する村民に対して買い物や在宅介護サービスなどの生活インフラへの今後の対応、学校等再開に向けた施設の整備などの説明後、質疑や意見交換を行いました。

村民からは、ホットスポットに対する除染の徹底、水田の暗渠・客土・用排水路整備、野焼き、フレコンバッグの早期搬出、在宅介護サービスの再開、いいたてホーム介護職員の確保など、生活に密着した質問が多く出されました。



飯野支所の閉所時期について

閉所時期について検討してきましたが、3月31日に帰還困難区域を除き、避難指示が解除されたこと、役場機能のほとんどが昨年7月に本庁に戻っていること、また飯野支所の建物については福島市からお借りしており、飯野町と福島市との合併の際、エレベーター設置ほか庁舎改修の約束があることなどの事由がありますので、来年3月31日をもって閉所することとしました。

村民の皆様には何かとご不便をおかけすることになりますが、職員一同村民への行政サービス向上に向け、さらに取り組んでまいりますので、ご理解をお願いいたします。

長泥地区役員との懇談会

5月14日、国、県、村、村議会が出席し、長泥地区役員との意見交換会を開催しました。今後、ミニ拠点整備をはじめ、復興・再生に必要な課題を整理し、村議会、地元住民とも十分協議しながら、復興整備計画を早期

福島大学との新たな協定の締結

「までいな家」を学生の拠点として提供し、震災後の村の復興をテーマに、学生が村内でさまざまな活動を行う機会を確保し、村もその研究成果を参考とする新たな協定を締結しました。

役場組織の改革

農業施設の復旧、復興を促進するため、4月1日付で「建設課」内に「農林土木係」を新設しています。農業基盤整備事業の担当として、土木係より分離独立させ、用排水路整備、暗渠整備等の村民のご要望に速やかに対応していきます。

宿泊体験館「きこり」について

国の全面補助を受け改修を行っている関係で、当面村民のみ利用という厳しい条件が付されていますが、これからの村づくりは交流人口増が必須です。吉野復興大臣に村外者の利用についても可能となるよう強く要望し実現に向けた詰めを行っています。

福島圏域首長懇話会

福島市と近接する市町村の首長が相互に協力関係を結ぶ福島圏域首長懇話会が5月19日に開催され、初めての合意文書となる「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。

これは、域内で火山の噴火等の大規模災害が発生した際、近隣市町村が協力して被災者の支援等に当たるための協定です。

いたて村の道の駅までい館

6月5日に「いたて村の道の駅までい館」の道の駅登録証の授与式が行われました。国土交通省より県内31番目の道の駅として正式に登録されました。8月の開業に向け、施設の整備と運営にかかる詰め作業を行っています。

おかえりなさい補助金

6月1日までに93件の申請があり、うち74件、1,480万円が支払済です。

村民の帰村状況

6月1日現在、村に帰還した方は149世帯で333人、震災後転入した方が20人、未避難者といったホームの入所者を合わせ、飯館村内に204世帯で397人の方が居住している状況です。

総合健診

総合健診を、5月10日から行っています。16歳以上の全村民を対象に仮設住宅などを会場に実施しました。

避難指示解除を受け、いちばん館でも2日間実施し、504人の村民が受診しました。同時に、内部被ばく検査も行い、多くの村民が受検しました。

また、健診と併せ、県立医科大学などの協力を得て、よろず健康相談会も例年どおり実施しました。総合健診受診者は、1,280人でした。

農政関係

避難指示による作付断念から6年ぶりに、須萱、二枚橋、松塚、八和木、佐須地区の約8.1ヘ

クタールのは場で田植えが行われました。このうち、須萱、二枚橋、松塚地区では、「里山のつぶ」「天のつぶ」「こがねもち」の鉄粉コーティングもみの直播を実施し、八和木、佐須地区では「ひとめぼれ」「こがねもち」等の移植による田植えが行われました。



営農再開状況

原子力被災12市町村農業者支援事業、いわゆる4分の3補助事業、並びに、陽はまた昇る基

宿泊体験館「きこり」利用状況

平成28年3月に再オープンしたイオラなどの入浴施設については、本年3月までに6,136人の利用がありました。なお、5月末までの宿泊者数は159人となっています。



昇口舗装の進捗状況

全体644件のうち、平成28年度までに255件が実施済で、今年度は繰越を含めて計画19

学校等再開整備事業

福島再生加速化交付金事業を活用し、中学校の校舎と体育館の改修工事、及び、小学生用体育館、給食センター、認定こども園、屋内プール新築工事が着工しました。5月15日に安全祈願祭を開催しました。

学校再開は村復興の最重要課題ですので、平成30年4月の開校に向けて、着実な進捗に努めていきます。併せて、教育内容の充実に向け、取り組んでいきます。平成29年5月末の児童・生徒数は震災がなかった場合の人数640名に対し139名、21.7%となりました。

生涯学習課

3月3日から5日まで村小学生8人が、奈良市で開かれた「東日本大震災復興に寄せるチャリティコンサート」に出演して



います。村民歌「夢大らかに」や「ふるさと4番」など3曲を披露してきました。奈良市の子どもたちとは、一昨年から交流が始まり、今回も昼食を一緒に食べたり、合唱をしたりと、交流を重ねてきました。子供たちの歌声をとおして、村の元気を伝えられる発表になったものと考えています。4月16日には、「ふれ愛館」で自主文化事業「千昌夫お帰りなさいコンサート」を開催しました。当日は、350人あまりが会場を埋め、「北国の春」や「星影のワルツ」など、なじみ深い歌を楽しみました。

伊東議員 自治功労表彰

この度、伊東利議員が福島県町村議会から自治功労者として表彰され、6月議会開会日に、大谷議長より伝達が行われました。伊東議員は、平成17年9月30日から現在までの3期11年以上にわたり、議員活動を通じて地方自治の振興発展と住民福祉向上に寄与しています。表彰は、その功績に対し贈られたものです。



金による5%上乗せ補助事業を今年度も進めています。5月末までに24件の農家に対し、営農再開に必要なトラクター、田植え機、パイプハウス等の導入を図っており、引き続き、約30件について事業を進めて行くこととしています。

農による生きがい再生支援事業

5月末までに野菜、そば、花などの作付希望者49件から申請が上がっています。

これらの方々に対しては、事業の交付決定と並行して、福島県営農再開支援事業のメニューを活用して福島市から搬入した良質な堆肥や、イノシシ・サル被害防止用の電気柵等を、作付地まで届けています。

片付けごみの回収

昨年度に引き続き実施することになり、4月中旬から受付・回収が開始されています。

なお、「片付けごみの回収」について、環境省からは本年度が最終年と言われていますので、今後、お知らせ版などで周知していきます。

5月28日の日曜日。昼下がりの佐須公民館に、地域の人が集まっています。そこで開かれていたのは、認定NPO法人「ふくしま再生の会」の健康医療ケアチームによる集会です。参加者は、代わりばんこにフットケア（足の手入れ）や脚のマッサージを施してもらい、待ち時間には、来訪した皆さんと入り混じって会話を楽しんでいます。佐藤公二区長は、「親世代が帰村して、2地域居住の家族が増えている。帰って来た人を元気づけてもらえて、うれしいね」と会場を見渡しました。

こうした集会は、会が、2年前から松川第一及び伊達東応急仮設住宅で開いてきたもの。村内開催はこの日が初めてで、今後毎月、最終日曜日に開かれる予定です。時にはおいしいものを作って食べたり、暮らしに役立つ勉強をしたり、さまざまな企画も用意されています。

協働で拓く 再生への道 「ふくしま再生の会」と語る

佐須地区以外の人でも、避難を続ける人でも、参加は自由。予約もいりません。「4月に帰って来た。6年も家を空けたから、やることも多い。それでもふるさとはいよいよ」「私は息子と福島市で暮らすの。だから村内の催しに来るのは何だか気がひけて。でも今日は声をかけてもらい、来てみて本当によかった」。健康医療ケアチームでは、医師や看護師、介護福祉士や臨床心理士などが、その専門知識を生かして、村民に寄り添う活動を続けています。「ふくしま再生の会」では、他にも、村内の線量モニタリング、土壌・植物などの放射線分析、農業再生・山林再生の実証、視察ツアーのコーディネートなどを行っています。



佐須公民館（旧佐須小学校）の一室で、健康医療ケアチームが開いた集会のようすです。この日は地区の皆さんが参加。放射線防護の観点から食事や暮らし方について医師のアドバイスを聞いたり、フットケアやマッサージを受けたり、自由に会話を楽しんだりして、和やかなひとときを過ごしました。



ふくしま再生の会
田尾陽一 理事長

昭和16年生まれ。東京大学理学部大学院物理専攻修士課程修了。インターネット事業や情報システム開発の第一線で活躍。平成23年に「ふくしま再生の会」を立ち上げ、この4月から飯館村に住所を移しました。

2011年の6月でした。「大変な事故だ。現地を見に行かなければ」という思いで、有志と福島を訪れました。その時、相馬の人の紹介で面会したのが菅野宗夫さん。佐須の自宅にはまだ牛がいましたね。その時、宗夫さんから「避難先から通ってここでやることを試みたい」という言葉を聞いたのです。「再生の会」は、この出会いから生まれました。

（KEK）が協力しています。しかし、それだけではないですよ。村を、福島を、再生するということが、「再び生きる」とはどういうことか。農業、生活、経済、家族、コミュニティ、山林：再生への手段はいろいろで、つまるところ「全部」なんですね。「再生の会」は、再生の道を考え続けていく組織なのです。自然と人間が共生してきた飯館村の再生は、日本、東京にとっても意味のあること。戻すのではない、新しく作っていくのです。それは、精神を含んだ深い再生です。会員たちの発想で、やるべきことは次から次に出てきます。6年が経ち、「東京からの目線では、本当のことは分からない。協働するには、住んだ方がいい」と思っ、村に移住しました。村民と一緒にやることに意味がある。これからも続けていきたいと思っています。

近頃、多くの方が、福島を話題にしなくなったと感じています。相手が近い人であっても、一人ひとり考えが違うために、話題にしない。それも一つの「分断」だと考えれば、被災地以外の人もまた、「被害者」なのではないでしょうか。被災地以外の皆さんに、このできごとを共有してもらうことは、とても重要で、それなくして福島の再生はないでしょう。そうした意味でも、再生の会で続けているいろいろな試みを、大事にしていきたいと思っています。会の皆さんの協力、支援は本当にありがたい。「自分が生きていくために大事なものがここにある」と感じて、飯館を訪れてくださる皆さんです。今を生きる私たちには出会えない、伝えられないものがあると強く感じています。



菅野宗夫さん（佐須）
村民の立場から会の副理事長を務めています

ふくしま再生の会

専門家と村民、市民ボランティアで組織する認定NPO法人。有志18人で原発事故の周辺地域を訪れた平成23年6月、田尾さんが、帰路の車中で会の立ち上げを宣言しました。きっかけは菅野宗夫さんとの出会い。協働で再生を目指す活動がすぐに始められました。現在の会員数は約300人で、活動への参加は自腹が基本。宿泊施設の協力も得ながら自炊もいとわず参加します。東京都杉並区に東京事務所があり、交通・宿泊の手配などを一手に行っています。さまざまな活動を記録し次世代につなぐアーカイブ事業にも取り組みます。

<http://www.fukushima-saisei.jp/>



飯館事務所

宗夫さんの旧納屋を改装した作業場が飯館事務所であり、田尾さんの住まい。ここでモニタリングデータの集積なども行っています。人々が気軽に訪れる1階の茶の間では、宗夫さんの飼った猫がくつろぎます。

おかえり、牛さん。
水田放牧実証はじまる
 6月7日、村内で福島県畜産研究所による牛の水田放牧実証試験が始まりました。村内の牧草地に直接牛を放牧するのは原発事故後初めてです。
 実証では、山田猛史さん（関根・松塚）が所有している水田に、避難先で飼育してきた繁殖牛6頭を10月頃まで放牧し、草を食べた量や、土壌や牛の血液中の放射性セシウム濃度などを調べます。また、牛が汚染度が高くなる他よりも高い水田畦畔の雑草などを食べないように畦畔そのものを除去したエリアと防草シ



▲畜産再生に向けた実証がはじまりました

トで覆ったエリアで効果の差異を確認するとともに、生産者が安定的に放牧できる方法を検証します。結果は、来年2月に公表される予定です。
 生い茂る牧草の中にある牛を見つめながら山田さんは、「やっ」と始まったという感じ。牛も伸び伸びとしているようで安心した。放牧のようすを見てもらい、営農再開の自信を持てる人が出てほしい」と希望を語りました。
水田放牧とは、肉用牛経営の省力化、耕作放棄地などの荒廃防止につながることから、特に中山間地域の活性化対策として注目されている飼養方法です。



▲5月1日、桜の花が残る中での小菊苗定植のようす

小菊産地を目指す
 5月1日、福島市内などで産地化が進んでいる高品質・高品種で市場評価が高い「小菊」の村内栽培を目的にした実証栽培が始まりました。これは、福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センターの実証栽培で高野吉正さん（前田・八和木）が小菊の苗3,000株を村内の畑に定植しました。
 今回の苗はJAふくしま未来花き専門部会小菊班の部員が福島市内で育苗し、村に近い川俣町で気候に慣らしたもので、村のほ場では定植と芯止め作業を行いました。



▲小菊の生育は順調で、早ければ7月下旬には開花を迎えそうです

高野さんは、「本格的に来年度からやってみようという思いは、何とか花を咲かせたい」と抱負を語りました。

**子どもの頃から、歯が命！
 むし歯0の子表彰**

6月18日、3歳児健康診査でむし歯がなかった子を表彰する「むし歯0の子表彰」が子育て支援センターすくすくで行われました。当日参加した子どもたちには、ご褒美の表彰状と記念メダルが贈られました。

平成28年4月から平成29年3月末までに行われた3歳児健康診査でむし歯がなかった子は20人でした。



▲菅野村長から、子どもたちへご褒美が贈られました

**むし歯0を達成した親子の中から、
 2組をご紹介します**



花井 正美さん
 晴煌くん（伊丹沢）

「はみがきを嫌がる時も親子でがんばってみがいています！」



菅野 千春さん
 大地くん（比曾）

「夜の仕上げ磨きは、パパの出番！毎日みがきががんばってます」

子どものむし歯予防に大切なポイント

- ① おやつは時間を決めて！
 「だらだらおやつ」はやめましょう！
- ② 子どもはむし歯になりやすい！
 食べたらみがくの習慣をつけましょう！
- ③ はみがき終わりには、
 大人が必ず、仕上げ磨きを！



▲表彰式後には、楽しい遊びの教室が行われました

平成29年度 むし歯0の子表彰者

名前	性別	行政区
菅野 明日美	女	比曾
高野 芽衣	女	白石
花井 聡一郎	男	伊丹沢
佐藤 瑞葉	女	関根・松塚
森 絆貴	男	大久保・外内
佐藤 龍之介	男	伊丹沢
八巻 莉乃	女	草野

名前	性別	行政区
菅野 心乃香	女	草野
花井 晴煌	男	伊丹沢
佐藤 一華	女	上飯樋
佐藤 來駕	男	比曾
山田 陽香	女	伊丹沢
赤石 優大	男	大久保・外内
大滝 翔馬	男	八木沢・芦原

名前	性別	行政区
佐藤 娃彩	女	宮内
巻野 舞優	女	伊丹沢
佐藤 玲奈	女	前田
菅野 大地	男	比曾
花井 咲心	女	伊丹沢
佐藤 悠人	男	関沢

※表彰式に来られなかった方には、表彰状とメダルを郵送でお届けします。

平成29年度の予算書を 中学生に届けました



生徒会長の伊東琴美さん（写真中央／3年生）が菅野村長から代表で予算書を受け取りました

6月9日、飯館中学校で、村の予算書を中学生に贈呈する式が行われました。式には菅野村長が出席して「平成29年度までいな“みんなの”予算書～ただいまふるさと、新たな村づくりの挑戦」を代表生徒に手渡し、事業の内容や財源などについて解説も行いました。生徒たちは、説明を受けて、さまざまな事業の内容について質問をしたり、自分たちが「ふるさと学習」の一環で取り組むCM制作に財政支援を求めたり、熱心に、和やかに、村長と意見を交わしました。

仲間と共に楽しみました ミュージック花火2017



さまざまな種類の花火と音楽が織り成すショーは感動的。スタジアムは何度も歓声に包まれました

6月3日、福島市佐原の県営あづま球場で、「ふくしまミュージック花火2017」が開催されました。毎年この企画に協力している村では、村に帰った人、これから帰る人、避難している人などが、一緒に楽しめるイベントとなるよう、村民向け特別優待チケットを用意。約600人の村民が、1万発の花火と音楽の競演を満喫しました。また、いいたてホームでは、3次元的に映像を映し出すVR機器でこのショーを視聴する企画が行われ、入所者も同時にミュージック花火を楽しみました。

ライオンズクラブから 樹木の寄贈がありました



菅野哲会長（左から3人目）らが村役場を訪れ、寄贈する樹木の目録を、菅野村長に手渡しました

6月8日、「飯館ライオンズクラブ（菅野哲会長／草野）」の代表が村役場を訪れ、樹木の目録を贈呈しました。寄贈の樹木は2本で、飯館ライオンズクラブからオオヤマザクラ、相双地区のライオンズクラブで組織する「ゾーン」からケヤキが贈られます。菅野会長は、ライオンズクラブ国際協会の100周年を記念した寄贈であることを紹介し、「ぜひ活かしてください」とあいさつしました。2本は、共に10メートルほどの高さがあり、整備が進む飯館中学校の敷地内に、移植される予定です。

県内31番目の道の駅として 登録証が伝達されました



菅野村長(右)に登録証を伝達する松田所長。「地域間交流の拠点になることを期待します」

深谷地区で建設中の「いいたて村の道の駅までい館」が、国土交通省の「道の駅」に正式に登録され、6月5日に、村役場で、登録証伝達式が行われました。登録日は今年の4月21日で、県内では31番目の道の駅となりました。式では、菅野村長が松田和香磐城国道事務所長から登録証を受け取り、「周辺の整備も継続して進める。村らしい楽しさ、やさしさがある拠点にしたい」と抱負を語りました。「いいたて村の道の駅までい館」は、8月12日に、グランドオープンを迎える予定です。

村防犯指導隊が活動を再開 出動式を行いました



交流センター前の出動式では菅野村長が「活動が村民の安心につながる」と隊員らを激励しました

6月22日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村防犯指導隊（菅野敬隊長／関根・松塚）の出動式が行われました。同隊は、南相馬地区防犯指導隊に所属し、村内一円のパトロールや、防犯イベントへの協力活動を行います。隊員は、松崎幸夫南相馬警察署長から委嘱状を受け取り、出動式に臨みました。松崎署長は、「隊の活動再開に期待する。復興を治安の面から支えていく」とあいさつ。隊員らは、出動宣言を合図に、警察車両と共に、村内パトロールに出発しました。

「おかえりなさい」補助金 100件達成のセレモニー



菅野村長から目録を受け取る齋藤義彦さんは「うれしいね」とにっこり。左端は娘の千春さん

6月8日、飯館村「おかえりなさい」補助金の申請が100件に達し、役場窓口で記念のセレモニーを行いました。100件目の申請をしたのは、齋藤義彦さん・千春さん親子（草野）。菅野村長が補助金の目録と記念品を手渡しました。娘の千春さんは「以前は別々に暮らしていましたが、家族の顔を見て暮らしたくて、帰村も一緒にしました」と笑顔を見せていました。※「おかえりなさい」補助金は、避難先を退去し帰村した世帯に、引越し費用として一律20万円を補助する村の事業です。



きれいに整備されたパークゴルフ場でのびのびと

昨年設立された「飯舘村パークゴルフ協会（横山正秀会長／前田・八和木）」が、瀬上河川敷パークゴルフ場（福島市）で、10回目となる記念の大会を開催しました。男性では渡邊守男さん（小宮）、女性では丹野マサイさん（飯樋町）が優勝。横山会長は、「和やかに楽しくプレーすることが体によい。村内に建設予定のパークゴルフ場の完成も待ち遠しい」と話していました。



毎月の定例会や各種大会でプレーを楽しんでいます

飯舘村
パークゴルフ
協会



藤華新流&
征人ミュージック
・オフィス



藤田征人さんは「親ごころ」他、胸に染みる歌を披露

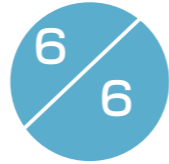
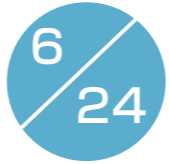


握手して交流する藤華舞澄美（まいすみ）さんら



会場は満席。剣を用いた演武を披露しました

いいたて
太極拳
サークル



飯舘村
更生保護女性会



そっと寄り添い一緒に歌を聴く杉浦会長（手前右）



演武を終えて。「本番で一番動きが合いました」

村の太極拳サークル「いいたて太極拳やまゆり（渡邊里子代表／小宮）」の皆さんが、喜多方市で開かれた「第14回太極拳フェスティバル」の集団演武交流会に出場しました。これまで講習の受講で同フェスティバルに参加してきましたが、県内外の団体が出場するステージでの演武は、今回が初めて。美しい曲にのせて、練習を重ねてきた「32式太極剣」を披露しました。

上記のコンサートに合わせて「飯舘村更生保護女性会」が、いいたてホームを訪れました。保護司の活動や、「社会を明るくするあいさつ運動」などに協力してきた同会。現在も月2回のホーム慰問を続けています。「女性の立場から、できる範囲でのお手伝いです」と杉浦正子会長（伊丹沢）。ホームの職員は「交流を続けていただきありがたいです」と話していました。



交流をしながら、車イスの移動も手伝います



入札結果をお知らせします

入札日／4月14日（単位：円）

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
消防団第1分団機動部屯所解体撤去工事	1,479,600円	(有)福相建設	平成29年5月下旬
大谷地住宅団地建替法定外工作物用途廃止申請測量業務	1,695,600円	(株)船橋コンサルタント	平成29年7月下旬
道の駅花玉設置工事	9,471,600円	大藤造園(株)	平成29年8月下旬
道の駅売上等管理システム構築業務	10,638,000円	(有)マルショウ事務機	平成29年7月下旬
道の駅までい館厨房機器	9,698,400円	タニコー(株)東福島営業所	平成29年7月下旬
道の駅までい館備品(ブロンズ像)	29,916,000円	(有)アカデミヤ	平成29年7月下旬
飯館村葬儀所整備工事	240,840,000円	(株)古俣工務店 川俣支店	平成29年10月下旬
飯館村葬儀所整備工事監理業務	7,992,000円	(有)小坂建築設計工房	平成29年10月下旬
営農再開支援事業農地保全管理業務	8,316,000円	(一財)飯館村振興公社	平成30年3月中旬
居久根伐採材搬出運搬業務	19,872,000円	飯館村森林組合	平成30年3月下旬
パークゴルフ場基本計画策定業務	3,564,000円	国際航業(株) 福島営業所	平成29年6月下旬
村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(1)	16,740,000円	(有)渡建工業	平成30年3月下旬
村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(2)	22,442,400円	(株)英工務店	平成30年3月下旬
村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(3)	22,140,000円	(有)福相建設	平成30年3月下旬
村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(4)	21,438,000円	濱田建設工業(株)	平成30年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館地区) 農業用施設等点検除草清掃業務	14,742,000円	(有)渡建工業	平成30年3月下旬
平成28年度第20号【繰越明許費】 帰還再生生活道路整備工事	21,276,000円	(株)英工務店	平成29年8月下旬
平成28年度第21号【繰越明許費】 帰還再生生活道路整備工事	23,274,000円	濱田建設工業(株)	平成29年8月下旬
平成28年度第22号【繰越明許費】 帰還再生生活道路整備工事	19,785,600円	(株)東栄	平成29年8月下旬
平成28年度第23号【繰越明許費】 帰還再生生活道路整備工事	21,600,000円	(有)渡建工業	平成29年8月下旬
平成28年度第24号【繰越明許費】 帰還再生生活道路整備工事	19,656,000円	濱田建設工業(株)	平成29年8月下旬



スマートフォン用画面イメージ



タブレット用画面イメージ

スマートフォン、タブレット向け
イタネちゃんお知らせ
アプリを開発しています



現在、村民の皆さまにお貸ししているタブレットは、メーカ保証期間が終了していること、国からの補助金が受けられないなどの理由により、平成30年3月31日をもって通信契約を解除させていただきます。それに代わる新たな情報発信手段として、村ではスマートフォン、タブレット向けのアプリを開発しています。アプリの利用開始時期については、7月中旬を予定しています。詳細につきましては、次号の広報にてお知らせします。※村でお貸ししているタブレットでは、使用できません。※平成30年4月以降のタブレットの取扱いについては、現在検討のため、別途お知らせいたします。

問 総務課企画係
0244(42)1613

6月の村の動きと主なできごと

- 3日・「ふくしまミュージック花火」開催(福島市・県営あづま球場)
- 4日・むし菌0の子表彰式(子育て支援センターすくすく)
- ・小宮行政区 農政関連事業説明会(小宮コミュニティセンター)
- ・前田・八和木行政区 農業基盤整備ワークショップ(八和木集会所)
- 5日・「いたて村の道の駅までい館」道の駅登録証伝達式(村役場本庁)
- ・仮設住宅・公的宿舎管理人会議(飯野支所)
- 7日・水田放牧実証事業スタート(松塚地区)
- 8日・第5回除染検証委員会(村役場本庁)
- ・第1回いたて村文化祭実行員会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・おかえりなさい補助金100件達成(村役場本庁)
- 9日・「までいな」みんなの「予算書」贈呈式(飯館中学校)
- 9日・15日・6月議会定例会(村役場本庁議場)
- 11日・草野行政区 農政関連事業説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・比曾行政区 農政関連事業説明会(比曾集会所)
- ・関沢行政区 営農再開支援事業説明会(関沢ふれあいハウス)
- ・大倉行政区 農政関連事業説明会(大倉体育館)
- 12日・「放課後塾」スタート(飯館中学校)
- 18日・伊丹沢行政区 農政関連事業説明会(伊丹沢集会所)
- ・八木沢戸原行政区 営農再開支援事業説明会(八木沢戸原多目的集会所)
- 21日・第6回農業委員会定例会(村役場本庁議場)
- 22日・飯館村防犯指導隊 出発式(交流センター「ふれ愛館」)
- 23日・除染検証委員会 報告書及び提言書提出(村役場本庁)
- ・定例教育委員会(村役場本庁)
- 25日・思いやりまでいララピピン交流会(飯館中学校仮設体育館)
- ・大倉地区 営農再開支援事業説明会(大倉体育館)
- 27日・学校運営協議会(飯館中学校)
- 29日・「日本で最も美しい村」連合フェスティバル2017 in いいで 特産品出展(山形県飯豊町)



社会福祉法人いいたて福祉会の特別養護老人ホーム「いいたてホーム」で平成13年から施設長。県老人福祉施設協議会の顧問も務めています。

普段と変わらない一日だったのです。あの激しい揺れが起きるまでは「いいたてホーム」の職員たちは「大丈夫だよ、大丈夫」と、入所者に声を掛け続けていました。停電で床暖房が停まり、布団をかけて入所者の体を温めました。食事は、厨房に発電機を入れて調理しました。ろうそくを灯しての夕食。自分の家族も心配だろうに、自宅から駆けつけた職員もありました。「使命感」ですよ。

その後、入所者の不安をやらせようと、お彼岸のほたもちを皆で作ったり、線量の低い大倉にお忍びでお花見に出かけたりしました。

バスで避難するとしても、座位を保てない人もあり危険が伴います。スクリーニング検査のため乗降もあります。おにぎりやパンをいただいても、ほぐしたり温めたりしなければ食べられません。移動の負担、環境の変化は、介護を受けるお年寄りには大変厳しいものなのです。

計画的避難区域に指定され、いいたてホームも、埼玉県内の施設に分散して避難をするよう調整が進んでいました。そのまま避難していたらご家族の対応も難しくなっていたかも知れませんね。しかしホームは、安全管理の条件の下、村内に残ることが認められました。残れることになりほっとしましたが、そうなるも職員は避難先から通わなければなりません。今まで普通にできていた介護ができないう葛藤も続きました。時に折れそうになる職員の心。それを支えたのは、利用者の笑顔でした。「今やれることをやろう」。笑顔を返しながら、そう励ましながら。当たり前のことができない日常に、どれだけの価値があるのか。身に染みしました。

ここが村の介護の砦(とりで)、帰村後の高齢者の拠り所だと思っ、皆でふんばりました。当初は避難がこんなに長くなると思っていなかったのですがね。誕生会や夏祭りなど職員手作りのイベントは、ずっと続いています。ボランティアの皆さんとの交流、全国からの支援にも支えられました。130人いた職員は、現在59人。利用者も増やせるよう、職員募集にも引き続き力を入れています。素晴らしい職員たちが、ここががんばっているのですから。

心も自分も大切に。

村民の皆さんからの相談に、堀先生がお答えします



精神科医 堀有伸先生
ほりメンタルクリニック院長

おしえてくんちえ! 堀先生

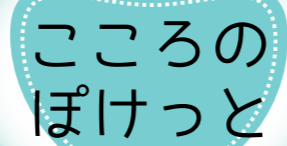
相談
堀先生

子どもが新しい環境に慣れるかどうか不安があります。

村外に避難をしている子どもたちが、新しい環境に慣れるのに苦労する場合があります。そんな時は、あまり厳しく「何でちゃんとできないんだ!」と叱らずに、思い切りその子どものことを大切にしてください。目には見えなくても、心は仕事をしています。悲しさや怒りを感じても、誰かのためを思ってそれをのみ込んだり、難しい大事な選択をしたり、板挟みになったり、そんなことで疲れています。子どもの世界にも競争があります。そんな中で、より安全な場所で過ごしていた他の地域の子どもの中に入っていくのは、大変なんです。そして、そんな子どもたちと同様に、大人たちも、自分と自分の周囲を大事にしましょう。

「心の健康相談」お問い合わせは 健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1638まで

世の中で一番、偉大な発見



間もなく梅雨に入ります。「雨が降れば洗濯物が乾かないし、天気になれば傘が売れない」全くその通りです。でも同じことでも、見方を変えれば明るい話になるはずですよ。「雨が降れば傘が売れるし、天気になれば洗濯物が乾く」と。絶望的に見えることでも、見方を変え、やる気と知恵があれば希望に変えられるということです。

「人間は一生の間に、千回は転ぶ」という話もあるそうです。転べば痛いはずですよ。その代わりに、立ち上がることで知恵がついて回りますよ、とも。ただ知恵がつくのは、立って前に歩こうとする人だけで、うつむいて後ろ向きに歩き出す人には、悔いが見つただけだそうです。

ある支店長が急に問題を多く抱えた小さな支店に異動通知を受けた。「突然だけど…」のみの上司の言葉で。いわゆる、左遷です。せめて「立て直せるのは君しかない」と位言ってくれれば、奥さんに愚痴を言ったら「あなた、大変な時に行くのが一番ラッキーなのよ」と言われたそうです。支店長の言葉で死んで、奥さんの言葉で生き返ったということでしょう。

世の中で一番偉大な発見は「人間は自分の心構えを変えれば、人生を変えることが出来る」ということが分かったということだそう。人間、誰しも自分のことを最優先に考えるのは当たり前ですが、それだけでは悔いの残る人生を送ることになるはず。想定外の避難生活ですが、そろそろ考え方・見方を変えて親にもらった世界でたった一つの命、たった一度の人生を「世の中で一番、偉大な発見」を使って大事に、大切にしたいって思っています。ありませんか。「言うは易く行うは難し」でもあります。

平成29年6月19日 飯館村長 菅野 典雄



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
今井 真くん	一起・彩	深谷
佐藤 滉くん	務・舞	関根・松塚
高橋 蒼尊くん	匠・里絵	上飯樋
中島 菜緒ちゃん	政春・小春	比叡
佐藤 なぎさちゃん	潤・歩美	二枚橋・須萱

すくすくと元気に育ってね



結婚おめでとう

氏名	出身地
三浦 恵介	深谷
今野 千明	浪江町

いつまでもお幸せに



おくやみ

氏名	年齢	行政区
花井 文雄	75	伊丹沢
鈴原 富子	90	深谷
嶋司 千代子	86	飯樋町
庄司 千代子	92	関沢
大島 テル	93	関沢
大澤 恵美子	58	上飯樋
齋藤 春夫	98	大久保・外内
佐藤 尚一	72	上飯樋
菅野 次男	61	長泥
清水 榮治	75	長泥

ご冥福をお祈り申し上げます

(5月21日から6月20日までに届け出のあったものを掲載)
*この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成29年5月31日現在)		5月1日~31日までの人口動態	
人口	今月 (前月比)	◆◆◆人口動態◆◆◆	
男	2983人 (-1)	転入	9人
女	3012人 (-4)	転出	12人
計	5995人 (-5)	出生	2人
世帯数	1805戸 (+3)	死亡	4人
			(住民基本台帳人口)



いきいきとプレーする皆さん
見ている方も笑顔になります



参加者は「スリッパピンポン」
も楽しみました。手に注目！



卓球部員を中心に毎年出場し、大会を盛り上げてくれる飯館中学校の生徒の皆さん



「食を考える会」の赤しそジュースで元気回復！

フォトストーリー 📷

思いやり・までいラリーピンポン交流会

6月25日、「第6回
思いやり・までいラリー
ピンポン交流会」が、飯
館中学校の仮設体育
館で開かれました。相
手の打ちやすい球を返
して、どれだけ長くラ
リーができるかに挑戦
する、ユニークで、思い
やりにあふれる競技の
大会です。ペアで出場
する「競技の部」、個人
が組み合わせてペアと
なる「ふれあいの部」に
分かれて、出場者がま
までないラリーを楽しみ
ました。



飯館中学校の皆さんも連続出場。笑顔の交流をありがとうございます

HOPES

ホープス セカンド
2nd



番外編！

災害救助犬になりました

じゃがいもさん
(関沢)



災害救助犬のガウンを身に着けたじゃがいも。8月には、認定試験合格の報告をかねて、村へ里帰りし、同月オープンの道の駅で、勇姿を披露してくれる予定です。

全村避難となった村内で、平成23年6月に生まれた雑種犬「じゃがいも」。預けられた岐阜県のNPO法人「日本動物介護センター（山口常夫理事長）」で災害救助犬の訓練を受け、平成24年秋から、認定試験に挑戦を続けてきました。しかし、要救助者を発見しても吠えることができなかったり、制限時間をオーバーしたり。5回、6回と試験



瓦礫搜索の訓練を行うじゃがいも。認定試験は、原則年2回の開催で、合格率も、約3割という難関です。失敗が続いてもあきらめず挑戦を続けてきたからこそその合格ですね。

に挑みますが、不合格が続きました。それでも「少しずつ成長している」と、山口理事長は訓練を継続。じゃがいもも期待に込めて訓練に取り組んできました。そしてこの6月、11回目の挑戦で、ついに手にした合格。訓練を始めてから、5年の月日が流れていました。

吉報は、山口理事長から、元飼い主の井上キミエさん（関沢）の元へも届きました。井上さんは、「とうとう合格した」と喜びがこみ上げ、心の中で「やった！と叫んだそうです。

村民の愛犬を約50頭受け入れた同センター。飼い主と犬たちが再会できるよう、年に数回の里帰りをを行うなど、心のこもった支援をいただけてきました。飼い主の元に戻った愛犬も12頭を数えます。今回の合格を受けて、「避難解除となった村へ、よい知らせが届けられる」と話す山口理事長。8月には、じゃがいもと一緒に村を訪れる予定です。

へ編集後記

●「広い！」「時間が止まってるみたい」。6月24日、村内の小学校校舎に子どもたちの声が響きました。この日は、ふるさと教育の二環で、仮設小学校に通う全校生徒が、3校それぞれの校舎を見学しました。震災後、静まりかえっていた学校に子どもたちの姿。「学校に子どもがいる」あたり前の光景に胸が熱くなりました。来年4月からの新しい村の学校にご期待ください。（木幡）

●「田植え踊りに加わっている中学生が、この踊りも中学校で教えてほしいと言ったよ」「今年は盆踊りを復活させるよ。離れている人も来てくれるといいなあ」「このボランティアは、できる範囲で続けたいの。やめるのはいつでもできるし、なくすのは簡単。だからこそ…ね」。何気ないことのように語る先輩方の言葉にしばれます。心の糧にしています。（星）



飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。